

令和3年（行コ）第4号 発電所運転停止命令義務付け請求控訴事件

被控訴人兼控訴人（一審被告） 国（処分行政庁：原子力規制委員会）

控訴人（一審原告ら） X 5 1 外6名

被控訴人（一審原告） X 1 外 1 1 2名

参加人 関西電力株式会社

証 拠 説 明 書

2023年2月15日

大阪高等裁判所 第6民事部 御中

一審原告である控訴人ら・被控訴人ら訴訟代理人

弁 護 士 冠 木 克 彦

弁 護 士 武 村 二 三 夫

弁 護 士 大 橋 さ ゆ り

弁 護 士 高 山 巖

弁 護 士 瀬 戸 崇 史

弁 護 士 谷 次 郎

号 証	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年月日	作 成 者	立 証 趣 旨	備 考
甲249	「大飯発電所敷地内破碎帯の追加調査－最終報告－コメント回答」の「角閃石の主成分分析結果(R14-21.52)」及び「カミングトン閃石の主成分分析結果(R14-21.52)」	写 平成 25(2013)年 9月2日	参加人	①参加人は、R14火山灰の「角閃石の主成分分析結果(R14-21.52)」及び「カミングトン閃石の主成分分析結果(R14-21.52)」において、各元素ごとに各火山灰(「hpm1 GHo」、「DMP7 GHo」、「Mihama GHo」、「R14-21.52 GHo」、さらには「hpm1 Cum」、「DMP7 Cum」、「Mihama Cum」、「R14-21.52 Cum」)の数値を比較し、その数値のばらつき近似性を根拠に、「R14火山灰」を「hpm1」であると判断していると考えられるところ、通常、明らかにされるべき対比した「hpm1 GHo」及び「hpm1 Cum」の出典が明らかにされていないこと。 ②「角閃石及びカミングトン閃石の主成分分析結果(R14-21.52)」記載の各元素の図からすると、R14火山灰の数値の分散状況は「hpm1」よりも「DMP7」、「Mihama」のそれに類似しており、「R14-21.52」は「hpm1」よりも、「DMP7」、「Mihama」に近似していると考えられること。 ③火山灰分析結果では、南側トレンチアプローチ道路法面「R10」でもhpm1が確認されている記載があるが、この「R10」の主成分分析結果は示されていないこと。	最終報告書の表紙及び同報告書197頁から203頁を抜粋したもの。
甲250	中国地質調査業協会ホームページ「大山火山灰」	写 平成 20(2008)年 -月-日	中国地質調査業協会	大山松江テフラの降灰年代が約13万年前であること。	
甲251	「緑色普通角閃石の主成分および微量元素成分元素組成による美浜テフラと四国沖MD012422 コアから検出されたクリプトテフラとの対比と給源の推定」(地質学雑誌第127巻第2号91-103ページ, 2021年2月)103頁(要旨)	写 令和 2(2020)年8 月7日	古澤 明 佐々木俊 法 後藤憲央	美浜テフラの降灰年代が約12～13万年前であること。	

号 証	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年月日	作成者	立証趣旨	備考
甲252	産業技術総合研究所「西之島火山 2015年3月1日 火山灰試料の解析 結果」3頁	写 一年一月 一日	産業技術 総合研究 所	Mg#の数値が、 $Mg/(Mg+Fe) \times 100$ の式によって導かれること。	
甲253	「大飯発電所敷地 内破砕帯の追加調 査－最終報告－コ メント回答 平成25 年8月19日」有識 者会合 第5回評 価会合」の「6. 火 山灰分析結果の再 整理」(140ページ から165ページ)	写 平成 25(2013)年 8月19日	参加人	① 参加人は、南側トレンチ付近にhpm1降灰層準が存在するとし、南側トレンチアプローチ道路路面以外に、 ①南側トレンチ内、②南側トレンチ付近の群列ボーリングでもhpm1が見つかったとして、火山灰分析結果を示していること。 ② 火山灰同定のためには、火山ガラス等の屈折率を比較する方法が主たるものであるところ、「大飯発電所敷地内破砕帯の追加調査－最終報告－コメント回答」の「6. 火山灰分析結果の再整理」において「hpm1」と同定されている試料には火山ガラス等の屈折率が記載されていないものがあること。	最終報告書の表紙及び同報告書140頁から165頁を抜粋したもの。
甲254	大飯発電所敷地内破砕帯の追加調査－最終報告－ 平成25年7月25日 関西電力 207、234～244 頁	写 平成 25(2013)年 7月25日	参加人	参加人の資料から読み取ると、 ①南側トレンチ内及び②南側トレンチ付近の群列ボーリングでは火山灰分析結果が示されているのは18地点で、その内で普通角閃石・カミングトン角閃石の主成分分析結果が示されている地点は、わずか6地点にすぎないこと。	最終報告書の表紙及び同報告書207頁、234頁から244頁を抜粋したもの。